

(要旨)

定 例 経 営 会 議 ・ 議 事 録

年 度	令和2年度	回 数	第9回
日 時	令和2年10月27日	午前9時30分～10時25分	
場 所	マルチメディアホール(いきいきプラザ 3階)		
出 席 者	渡部市長 野崎副市長 松谷副市長 村木教育長 南部議会事務局長 野口会計管理者 間野経営政策部長 東村総務部長 武岡地域創生部長 清水市民部長 平岡環境安全部長 大西資源循環部長 山口健康福祉部長 瀬川子ども家庭部長 粕谷まちづくり部長 田中教育部長 欠席者:なし		
次 第	1. 開会 2. 協議事項 (1) 庁内ペーパーレス化推進に向けた検討について 3. 報告事項 (1) 令和3年度予算要求状況と歳入歳出の乖離額について (2) 令和元年度第3回定期監査の結果に基づき講じた措置について (3) 東京 2020 オリンピック・パラリンピックたのしみらやまプロジェクトチームの延長に伴うPTメンバーの指名について (4) 令和2年市議会12月定例会提出予定案件及び関係資料提出日程等について (5) その他 4. その他 5. 閉会		
会 議 経 過	次頁参照		

1. 開会(市長あいさつ)

・10月に入ったが当市は新型コロナウイルスの感染者が急激に増えるという状況ではない。市議会、市民からも要望いただいていたPCR検査センターについては、清瀬市との合同設置という形で10月22日より火曜と木曜の週2回の体制で稼働している。

一方で、引き続き、感染防止に努めつつ、今月16日には平和記念慰霊祭、17日には市民功労表彰式、24日には中央公民館で当市在住の現代詩作家である荒川洋治氏の講演会を行うなど、市の行事・イベントも行われるようになった。それぞれの所管で、行事やイベントについて開催できるか、できないかという判断についてはご苦労いただいていると思う。今後、下半期にイベントを予定している部署においては、市内や周辺の感染状況を十分確認いただきながら、規模の縮小や、オンライン形式を活用するなどして、できるものは開催していただいた方が良いのではないかと考えている。

・10月23日には小池都知事との意見交換会が行われ、当市が進めようとしているスマートシティの取り組みや行政のデジタル化について、ご説明申し上げるとともに、東京都の支援等についてお願いさせていただいた。小池都知事からは、「東村山市はジョブシェアセンターの開設や、スマートシティへの取り組みも非常に早い」との趣旨のご発言があり、当市が進める施策の認知度は都庁内でも上がってきたかなという感触は得たところである。市単独で進めることの難しいデジタル化への取り組みなどは、国や東京都のお力添えをいただくためにも、こういう機会では、当市は積極的に取り組んでいるというところをアピールポイントとしていきたい。

・昨日26日は市長会の全体研修会があり、東京都におけるスマートシティへの取り組みについて宮坂副知事から講演があった。今後はデジタルイゼーションの時代となるということ。ICTを活用し、仕事のプロセス全体をデジタル化していき、ペーパーで情報を共有するのではなく、オンラインで共有し、そのまま情報を利用や加工ができるようにする。これは非対面、非接触が可能となるので、こうしたスタイルが当面の目標になるのではないかと、といったお話しだった。長中期目標としてデジタルトランスフォーメーションがあり、社会そのものや働き方が変わってくる。宮坂副知事は、これからはバーチャルな都庁を作りたいとのこと。平成に入った時に都庁は有楽町から西新宿に引っ越したが、令和は物理的な引っ越しではなくバーチャル空間に引っ越すと仰っていた。物理的な空間が全く無くなるわけではないが、目指す方向性はそういう方向だそうだ。もう一つは人材確保の問題で、シビックテックによる人材確保を行うという話で、シビックテックとは、「こういうシステムを作っていくので長けた人は、ぜひ協力して下さい」と呼びかけ、デジタル上で協力をしてもらうことで、現在、都庁の新型コロナウイルス対策関係のホームページはオープンソースにしているそうで、誰でも自由に加工して参加できる仕組みにしたところ、いわゆるデジタル上のボランティア、宮坂副知事は「デジタル分野の消防団」という言い方をしておられたが、1,000名程の方が参加して下さり作り上げたということで、基本的に無料で構築できたそうだ。市町村でも、デジタル技術に関心がありスキルを持っている方をボランティアとして活用してみたらどうかというお話であった。

台湾は新型コロナウイルス対策に伴い、デジタル化に向けたシステム開発を進めているが、台

湾もシビックテックのエンジニアが1万人程いるらしく先進的なシステムを次々に出しているということだった。志しがある方なら無償でも協力してくれる可能性があるので、ぜひ活用を考えてはいかがでしょうかと宮坂副知事はお話されていた。その前提として、やはり市が保有している情報のオープン化、オープンソース化が前提になるとのこと。世の中のために貢献したいと思っている方を、週に1回、または月に数日でも良いのでデジタル人材を確保することは可能なのではないかという話だったので、当市としても今後、検討していきたいと感じたところである。ペーパーレス化と合わせて、庁内での決裁権限のあり方についても随時見直しをしていく視点が必要かなとも思った次第である。

2. 協議事項

(1) 庁内ペーパーレス化推進に向けた検討について

・DX推進やCO2排出抑制といった環境に配慮する取り組みとも関係するが、具体的にペーパーレス化推進に向けて方針、ガイドラインを策定することを検討していくため、各部の状況や取り組みを総務会議で共有した後、総務会議にてガイドライン等の整備を進め、経営会議にて承認をしていくことで集約された。

3. 報告事項

(1) 令和3年度予算要求状況と歳入歳出の乖離額について

・現時点での令和3年度予算要求状況について庁内で情報共有を行った。

(2) 第3回定期監査結果に関する報告の対応等

(3) 東京2020オリンピック・パラリンピックたのしみらやまプロジェクトチームの延長に伴うPTメンバーの指名について

・東京2020オリンピック・パラリンピック1年延期になったことにより、庁内PTに選出された職員の任期を延長とする。

(4) 令和2年市議会12月定例会提出予定案件及び関係資料提出日程等について

(5) その他

〈東村山市版株主総会について〉

・令和2年度の東村山市版株主総会については例年の市民3,000名の方に無作為抽出してご案内状を出す形式は取り止め、市長と附属機関等の8名の審議会会長職のみなさまとオンライン上での対談形式による方法で開催とし、開催日は令和3年2月21日(日)14時からマルチメディアホールをメイン会場とし、各審議会の会長職の方にはオンライン上でご参加いただく。

4. その他

5. 閉会